

外国語活動・外国語科の「4技能5領域」指導のポイント

No.1

聞くこと		繰り返し英語を聞かせることが大切です。リスニング教材や ALT に加えて、担任の先生も英語を使いましょう。また、体を使って表現させると定着しやすいので、意識して学習活動を行いましょう。
手 順	①手立てを考える	理解可能な内容となるように（実物、絵、映像、ジェスチャー等）具体的な手立てを考えます。
	②見通しをもたせる	いきなり聞かせるのではなく、聞く内容について児童が推測したり自分と関連付けたりできるように、事前にその内容についての英語のやり取りを児童としておきます。
	③やり取りをする	聞き取った内容について、児童とやり取りをしたり、児童同士にやり取りさせたりすることで、再び児童が自分と結び付けて考えられるように工夫します。
内 容	○絵本の読み聞かせ	中学年で児童とやり取りをしながらの大量インプットには効果的です。一方的に読むのではなく、絵を見せながら、子どもたちが知っている表現を使い子どもとやり取りしながら読んでいきましょう。（子どもは日本語でも OK）
	○教科書のリスニング教材他 ○歌・チャンツ	大量のインプットを意図する場合は、左記の教科書教材などのツールを必要に応じて活用することが考えられます。
話すこと（やり取り）		児童が正しく言えなくても、言い直しさせるのではなく、教師が正しい表現を使っている姿を示します。最初から完璧な文章で話すことを求めるのではなく、児童が間違った表現を教師が正しい表現にして返していくことが大切です。
手 順	①児童の考えを引き出す	言葉が出にくい場合は、“I like oranges.”と教師が例を示したり、“You like …”と児童が“…”の部分だけを言えたいようにしたりする工夫が必要です。
	②表現を広げさせる	ペアなどで活動している際は、児童に使わせたい表現を聞き取り、活動の合間に、全体に紹介します。
	③みんなで考えさせる	ペアなどで活動している際、困っていることがあれば、どう言えたいのかを全体に問い、解決策を考えることで深まります。
内 容	○やり取り	自分のことや自分と関連のあることについてのテーマ設定をし、新出表現だけでなく、既習事項を使った関連質問などをして、やり取りを続けられるよう指導します。
話すこと（発表）		最初に考えた発表内容が、読み返しや友達とのやり取りの活動を経て、深まるように指導します。また、学年を通して段階的に聞き手に伝わりやすいよう、相手意識を持って発表できるように指導しましょう。
手 順	①ゴールをイメージさせる	単元の初めにモデル文を示し、授業のゴールを子ども達にイメージさせることが大切です。
	②全体で交流させる	友達とやり取りをしたり、ペアで発表や質問したりする活動を繰り返す中で、工夫したことや気付いた点、友達のよかったところや参考になった点などを交流させます。
内 容	○質問タイム	いきなり発表させるのではなく、発表する内容について、聞いたり、友達とやり取りをしたり、ペアでの発表の後に質問タイムを設けるなど、単元終末の発表文の内容が深まるようにします。
読むこと		単語 1 つ 1 つを区切って読むというよりは、自然な英語のイントネーション（強弱や長短、高低）を意識させることが大切です。（CD やネイティブの発音をまねさせる）
手 順	①文字に触れさせる	音声を中心とした外国語活動の時から、絵カードには必ず文字を表記し、常に文字に触れられるようにします。
	②文字（単語など）と音の結び付け	文字（単語など）と音を結び付けさせるため、指で文字や単語を追いつつ聞いたり、声に出して読んだりします。
内 容	○読む	何度も聞いたり言ったりして親しみのある表現を読むようにします。また、それを目で追って読めるようにします。中学年で何度も読み聞かせてもらった内容について聞き慣れた絵本を、読む活動も効果的です。
書くこと		小文字は、形だけでなく、文字を書く位置（基本線との関係）についても理解できるよう、外国語活動でアルファベットを学習する時から意識して、b d などは上に高い、g j などは下に伸びるイメージを、体を使って覚えられるように指導すると効果的です。
手 順	①正しい位置に書かせる	適宜、視覚支援を行いながら、文字を 4 本線の正しい位置に正しく書くよう指導します。
	②語順への気付きを促す	いきなり、1 文を書かせるのではなく、語順への気付きを促す活動となるように、最初は、主語や動詞はなぞり書きをしたり、目的語はカードを貼ったりすることから始めます。
	③まとまりを意識させる	単語は 1 つのまとまりとなるよう文字と文字を詰める、単語と単語の間は少し空ける、文頭は大文字、文末には“.”（ピリオド）“?”（クエスチョンマーク）等、文を書く時の注意点も指導します。
内 容	○書き写す ○書き溜めていく	聞いたり、話したりした内容について、書き写したり、語群から選んで書かせます。一度に大量に書くのではなく、単元を通して、一文ずつ書き溜めていくという指導も考えられます。

【参考：文部科学省作成「小学校外国語活動・外国語ガイドブック」】